

# 山田上ノ台遺跡

— 第5次発掘調査平成18年度概報 —

2007年3月

仙台市教育委員会

# 山田上ノ台遺跡

— 第5次発掘調査平成18年度概報 —

2007年3月

仙台市教育委員会



写真1 発掘体験の様子 東四郎丸小学校（SI37竪穴住居跡の調査）



写真2 発掘体験の様子 七郷小学校（ふるい作業）

## 序 文

山田上ノ台遺跡は、これまでの調査で旧石器時代から江戸時代にかけての遺跡であることが明らかになっておりました。縄文時代の大集落が市街地の中に良好に残る全国屈指の遺跡として評価されましたことから、本市としては、遺跡を保存し広く市民の皆様に活用していただく場として整備することとしました。そして、平成18年7月に自然と共に存していた先人の暮らしに触れるこことできる体験活動の場として「仙台市縄文の森広場」をオープンしたところでございます。

縄文の森広場では、これまでの調査を基に復元した竪穴住居や出土遺物などを展示しているだけではなく、多くの方々に体験を通して歴史に触れていただくため、さまざまな体験活動を企画しています。その活動のひとつとして、縄文時代の遺跡に直接触れていただくために発掘体験を企画し、市民の皆様に参加していただきました。

本書はこの発掘体験と調査成果についてまとめたものです。

来年度以降も引き続き調査を行い、調査成果を基に保存活用を図り、縄文の森広場をより多くの市民の皆様に利用していただけるよう努めてまいりたいと存じます。

今後とも文化財保護行政に対しまして市民の皆様のご支援とご助言を賜りますようお願い申し上げます。

平成19年3月

仙台市教育委員会

教育長 奥 山 恵美子

# 目 次

序 文	
目 次	
例 言・凡 例	
I はじめに	1
1. 調査要項	1
2. 遺跡の位置と周辺の遺跡	1
3. 調査にいたる経過	1
4. 調査の方法と経過	2
II 遺構と出土遺物	7
1. SI36竪穴住居跡	7
2. SI37竪穴住居跡	9
3. その他の造構	11
4. 遺物包含層	11
III 体験活動	12
1. 学校を対象とした発掘体験	12
2. 一般を対象とした発掘体験	13
3. 一般を対象とした整理作業体験	14
IV まとめ	15

## 例 言・凡 例

- 1 本書は、山田上ノ台遺跡第5次発掘調査の平成18年度調査部分の概報である。当該調査は、平成19年度も継続する予定である。
- 2 報告書の作成・編集は齋藤義彦が担当した。
- 3 出土遺物および調査・報告書作成に関わる一切の資料・記録は仙台市教育委員会が保管している。
- 4 本報告書中の土色については『新版標準上色帖15版』(小山・竹原1997)を使用した。
- 5 図中および本文中の方位は真北を基準としている。
- 6 図中の座標値は日本測地系・平面直角座標Xでの値である。
- 7 図中の高さ表示は海拔高値である。
- 8 遺構の略号は次のとおりである。

SI 竪穴住居跡	SK 土 坑	SD 清 跡
----------	--------	--------
- 9 遺構番号は、以前の調査で付けられていたものはそのまま踏襲し、番号が付けられていなかった遺構や今回新たに発見した遺構については101番から付けた。

# I はじめに

## 1. 調査要項

遺跡名：山田上ノ台遺跡

所在地：仙台市太白区山田上ノ台町10番1号

調査期間：平成18年8月23日～平成18年10月5日

調査面積：165m<sup>2</sup>

調査主体：仙台市教育委員会

調査担当：仙台市教育委員会 生涯学習部文化財調整室活用係 主任 平間亮輔 文化財教諭 斎藤義彦

調査協力：仙台市縄文の森広場

## 2. 遺跡の位置と周辺の遺跡

山田上ノ台遺跡は、JR長町駅の西約5kmに位置し、名取川左岸にある河岸段丘上の舌状に張り出す台地の南端部に位置する。遺跡の面積は約7haで標高は50m前後である。

本遺跡の周辺には数多くの遺跡が分布している。ここでは特に旧石器～縄文時代について概観する。

旧石器時代では、西方約2.5kmにある上ノ原山遺跡から後期旧石器時代初頭に遡る可能性のある石器群が出土している。また宮沢遺跡では、後期旧石器時代の約2万年前の森林跡が発見され、樹木や石器のほかに焚き火跡や動物の糞などが検出されている。

縄文時代では、北に隣接して北前遺跡があり、早期末の集落跡、前期末の土坑群、中期後半の集落跡が発見されている。一方、本遺跡では、中期初頭の上坑・遺物包含層、中期末の集落跡、後期前半の遺物包含層が検出されている。両遺跡を合わせると、前期末から後期前半にかけて造構遺物の変遷が連続して捉えられることから、当時この一帯は一体的な生活空間であったと考えられる。

周辺の丘陵や段丘上にある大規模な集落跡として、前期前葉の三神峯遺跡、中期の上野遺跡が古くから知られている。低地には、名取川や荒川の自然堤防上や自然堤防から後背湿地にかけてドノ内浦遺跡、山口遺跡、下ノ内遺跡、伊古田遺跡、六反田遺跡、大野田遺跡、鍛冶屋敷△遺跡、鍛冶屋敷前遺跡等があり、早期から晩期にかけての造構や遺物が検出されている。特に、下ノ内遺跡では中期末の集落跡が発見されている。

## 3. 調査にいたる経過

本遺跡では過去4回の調査が行われている。昭和65年度に宅地造成事業に伴う第1次調査(仙教委:1981)、昭和59年度に仙台市博物館での資料活用に伴う第2次調査(仙教委:1985)、平成14年度に旧石器発掘ねつ造問題に伴う第3次調査(仙教委:2002)、平成17年度に仙台市縄文の森広場(以下、縄文の森広場という。)建設のための第4次調査が行われ、今回の調査が第5次調査となる。

本遺跡は、これまでの調査で旧石器時代から近世までの遺跡であることが分かっている。特に第1次調査において、縄文時代中期末(大木10式期)の堅穴住居跡38軒、中期から後期初めにかけての貯蔵穴や落とし穴などの土坑約320基、中期から後期初めにかけての遺物包含層3カ所などが発見され、集落構造全体がほぼ把握できる良好な遺跡として、また、縄文時代の大集落が市街地の中に良好に残る全国屈指の遺跡として評価された。本市はその重要性から遺跡を保存することを昭和56年に決定し、今年度7月15日に遺跡活用の場として縄文の森広場をオープンしたところである。

この縄文の森広場の主要な基本方針として、第1次調査における未調査地区を中心とした発掘調査を継続して縄文集落の解明に取り組み、その成果を展示・体験活動などの充実化に反映させること、また、充実体験を実施し遺跡への理解や関心を深める場とすることなどが挙げられる。前者は縄文時代の解明に寄与し、後者は児童・生徒を含む一般市民を対象とした発掘体験の場として活用されることにより、文化財保護意識の啓発を図ることに寄与するものと位置付けられる。

これらの基本方針に基づき、今年度から発掘体験を取り入れた調査を行うこととした。なお、実施にあたっては、発掘体験としての企画運営部分を縄文の森広場が、発掘調査部分を仙台市教育委員会が担当した。

#### 4. 調査の方法と経過

調査対象地区は縄文の森広場内の第1次調査(昭和55年)で遺構確認にとどめた場所とし、毎年一定の期間継続して調査を行う計画である。今年度はSI36竪穴住居跡とSI37竪穴住居跡が確認された場所を1区、遺物包含層が検出された場所を2区と設定して調査することとした。1区は第1次調査の図面を基にSI36とSI37が調査区内に入るよう10m×12mの調査区を設定し、2区は遺物包含層の境界域が調査区内に入るよう3m×15mの調査区を設定した。

竪穴住居跡については、その位置を再確認した後、遺存状況等によって精査する遺構を設定することとした。遺物包含層については、状況把握をその目的とした。

遺物については、必要に応じて層ごとに出土状況図を作成し、堆積状況に留意し取り上げた。写真撮影は、35ミリ判モノクロ、カラーリバーサル及びデジタルカメラを使用した。また、サンプリングエラーを極力なくすよう注意した上で、微細な遺物についても採取するため、人力での掘削による排土は、すべて7mmメッシュのふるいにかけている。

8月28日(月)より重機による表土および第1次調査の埋め戻し上除去作業を開始した。細部の埋め戻し土除去は人力で行った。2区については埋め戻し土と遺物包含層とが極めて類似していたため、埋め戻し土上面より人力で掘削を行った。

1区では、予定通りSI36、SI37、SI35・SI38の一部、土坑8基、溝跡1条を確認した。今年度の調査はSI36とSI37を中心に実施することとしたため、その他の遺構については確認のみで堀込み、精査等を行っていない。また、天候不順や日程の条件などにより、SI37の床面の検出やSI36の炉の精査などは次年度への繰り越しとした。2区では北壁際にサブトレンチを設定し、遺物包含層の上面と分布の境界域を確認した。

今年度の調査経過の報告会として「縄文の森広場で発掘調査を見てみよう会」を9月23日(土)の午前と午後2回を行い、約130名が参加した。当日はふるい作業の体験コーナーを設置し、1区の堆積土のふるい作業を多くの参加者が体験した。

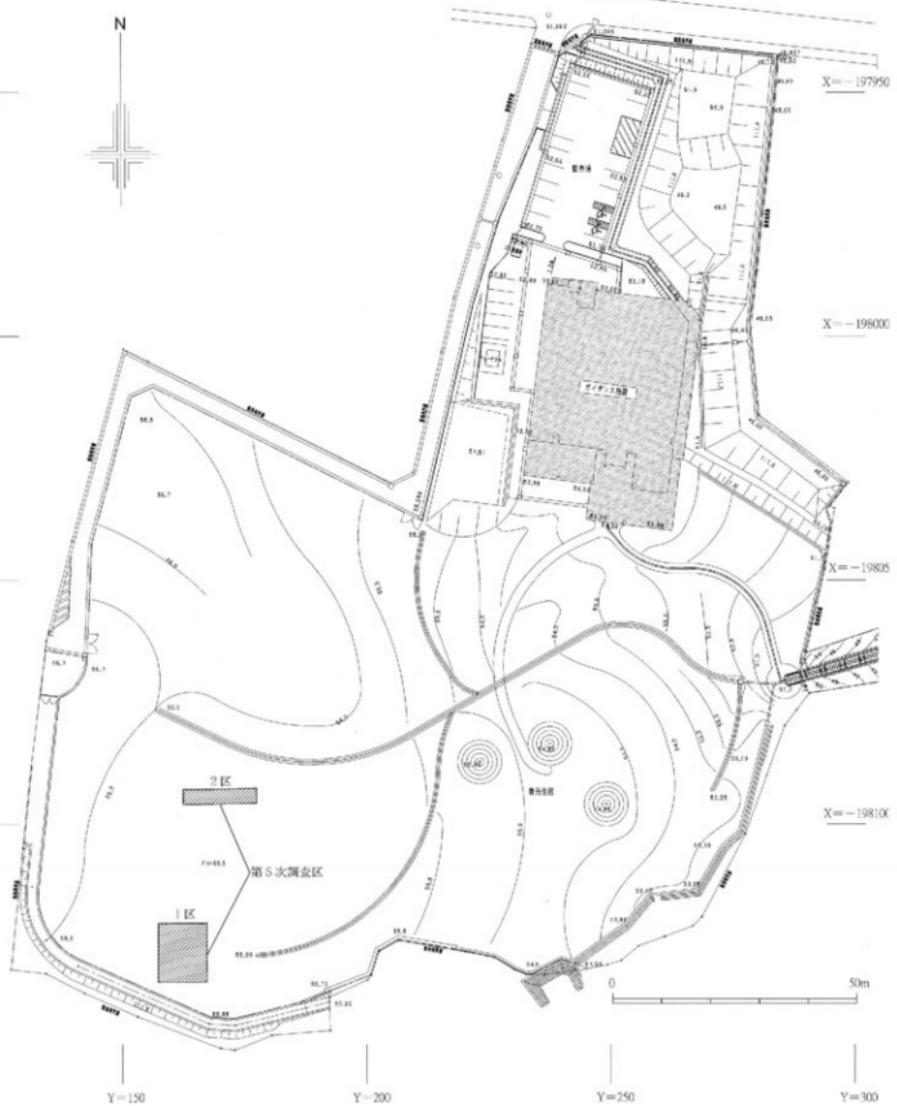
今年度調査した住居跡には遺構を保護するため不織布を敷き、人力にて埋め戻し作業を行い、その後重機にて埋め戻し、10月5日(木)までに今年度の調査を終了した。



第1図 周辺の遺跡と地形

No.	道跡名	立地	種別	年代
1	山田上ノ台遺跡	段丘	集落跡	旧石器(後)・縄文(早・中・後)・平安・近世
2	北前遺跡	段丘	集落跡	縄文(早・中)・平安・近世
3	御堂平遺跡	段丘	集落跡	縄文・平安・中世
4	山田条里遺跡	水田跡・垣跡	集落跡	縄文・平安・近世・近代
5	上野遺跡	段丘	集落跡	縄文(中～晚)・奈良・平安
6	船前遺跡	段丘	居住地	縄文・弥生・奈良・平安
7	駒形屋敷人道跡	自然堤防	集落跡	縄文(後・晚)・奈良・平安
8	駒形屋敷前遺跡	自然堤防	集落跡	縄文(後・晚)・奈良・平安
9	伊古田遺跡	自然堤防	集落跡	縄文・古墳・古代
10	下ノ内浦遺跡	自然堤防	集落跡	縄文(早・前・後)・弥生・古墳・奈良・平安・中世
11	下ノ内遺跡	自然堤防	集落跡	縄文(中・晚)・弥生・古墳・奈良・平安・中世
12	山谷遺跡	自然堤防・後背斜坡	水田跡	縄文(早・晚)・弥生
13	宮河遺跡	自然堤防・後背斜坡	水田跡	縄文・古墳・古墳・奈良・平安・中世・近世
14	照通跡	段丘	集落跡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安
15	三神峯遺跡	丘陵	集落跡	縄文(前・中)・平安
16	伊ノ口遺跡	丘陵	集落跡	縄文・弥生・古墳
17	土手内遺跡	丘陵	集落跡	縄文・弥生・古墳

表1 周辺の遺跡地名表



第2図 調査区位置図



第3図 遺構配置図（青色部分以外は、第1次調査で検出した遺構）

## II 遺構と出土遺物

今回は、1区(第4図)において竪穴住居跡4軒、溝跡1条、土坑8基、2区において遺物包含層を確認している。なお、遺構検出面の上位の土層は、第1次調査時に埋め戻した土と繩文の森広場造成時の盛土となっている。

以下、調査を行ったSI36竪穴住居跡、SI37竪穴住居跡などについて概述する。

### 1. SI36竪穴住居跡

SI36は調査区南東部で確認した(第4図)。SK103を本住居跡が切っている。SI36は残存状況が悪く、南側に炉跡を確認したが、明瞭な床面は確認できなかった。炉跡の位置、ピットの配置、および第1次調査の確認状況から、径約4.2~4.8mのほぼ円形であると考えられる。ピットにはいずれも柱痕跡は認められない。柱穴として、ピット19、20、23、35、24、27、28が考えられる。

炉跡は住居跡南側に位置し、断ち割り等の精査を行っていないため、構造等の詳細は不明であるが、残存部は最大長140cm、最大幅96cmである。

周溝は検出されなかった。

住居跡北側に埋設土器を確認しているが、上面確認のみのため器形等の詳細は不明である。

炉跡及び埋設土器の精査は次年度行う予定である。

遺物はピットから繩文土器片(321点)、石礫(2点)、スクレイバー(3点)、二次加工のある剥片(1点)、剥片(18点)、チップ(7点)、砥石(3点)が出土している。



写真3 SI36竪穴住居跡

No.	深さ(cm)	色調	性質	出土物・その他	No.	深さ(cm)	色調	性質	出土物・その他
1	18.8	OTYR06	褐色	シルト 黄褐色シルトブロック少量	21	21.8	OTYR04	暗褐色	シルト 黄褐色シルトブロック少量
2	2.9	OTYR08	黄褐色	シルト	22	24.1	OTYR04	暗褐色	シルト 黄褐色シルトブロック少量
3	11.1	OTYR06	褐色	シルト	23	31.8	OTYR06	褐色	シルト 黄褐色シルトブロック少量・柱穴?
4	19.8	OTYR04	暗褐色	シルト	24	33.3	OTYR02	暗褐色	シルト 黄褐色シルトブロック少量・柱穴?
5	38.3	OTYR06	褐色	シルト	25	20.0	OTYR04	暗褐色	シルト 黄褐色シルトブロック少量・柱穴?
6	25.4	OTYR04	暗褐色	シルト	26	27.0	OTYR04	暗褐色	シルト 埋込みをしていない
7	21.0	OTYR01	暗褐色	シルト	27	16.4	OTYR04	褐色	シルト 柱穴?
8	66.5	OTYR04	褐色	シルト	28	14.5	OTYR04	暗褐色	シルト 黄褐色シルトブロック少量・柱穴?
9	25.8	OTYR04	褐色	シルト	29	14.4	OTYR04	暗褐色	シルト 黄褐色シルトブロック少量
10	37.0	OTYR04	暗褐色	シルト	30	35.7	OTYR07	暗褐色	シルト 黄褐色シルト・柱穴?
11	38.5	OTYR04	暗褐色	シルト	31	35.5	OTYR04	暗褐色	シルト 黄褐色シルトブロック少量 欠番
12	17.1	OTYR01	暗褐色	シルト	32	—	—	—	—
13	13.6	OTYR04	暗褐色	シルト 黄褐色シルト・柱穴?	33	28.2	OTYR04	暗褐色	シルト 黄褐色シルト柱穴?
14	16.0	OTYR04	暗褐色	シルト 褐色シルト柱穴?	34	16.7	OTYR04	暗褐色	シルト
15	17.8	OTYR04	暗褐色	シルト	35	12.2	OTYR04	暗褐色	シルト に近い前輪削シルトブロック少量・柱穴?
16	25.9	OTYR04	暗褐色	シルト	36	6.1	OTYR04	暗褐色	シルト に近い前輪削シルトブロック少量
17	5.9	OTYR04	暗褐色	シルト 部分的に褐色シルトブロック少量	37	10.9	OTYR04	暗褐色	シルト 褐色シルト柱穴?
18	11.6	OTYR06	褐色	シルト 黄褐色シルトブロック少量	38	—	OTYR04	暗褐色	シルト
19	27.9	OTYR04	暗褐色	シルト 柱穴?	39	22.5	OTYR04	暗褐色	シルト 黄褐色シルト柱穴?
20	28.5	OTYR04	暗褐色	シルト 黄褐色シルトハーフロック少量・柱穴?	40	7.0	OTYR04	暗褐色	シルト 黄褐色シルト柱穴?

表2 SI36竪穴住居跡 ピット註記表



第4図 1区平面図（図中の算用数字のみのものはピットの道横番号）

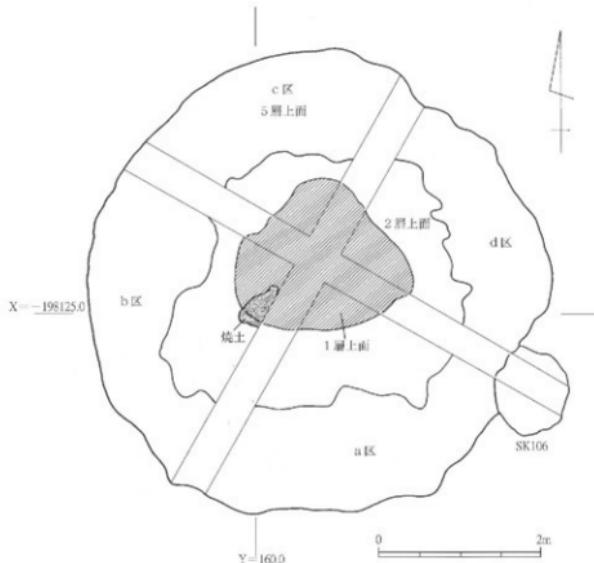
## 2. SI37竪穴住居跡

SI37は調査区北西部で確認した(第4図)。本住居跡はSK106に切られている。

SI37は残存状況がよく、規模は長軸5.75m、短軸5.45m、深さ24cm以上の円形である。土層観察用十字ベルトを設定し、ベルトを境に南東部をa区とし、時計回りにb区、c区、d区とした(第5図)。遺構検出面で1・2・5層を検出し、2層除去後に3・4層を確認している。4層上面で作業を中断しているため、現時点では確認している堆積土は5層までである。1層は灰褐色シルトで中央部におよそ2mの範囲で広がり、厚さ約5cmである。2層は黒褐色シルトで1層の下位および周辺におよそ3.5mの範囲に分布し、厚さ約13cmである。3層は灰褐色シルトでc・d区に主に分布し、厚さ約4cmである。4層は黒褐色シルトで2層および3層の下位におよそ3mの範囲に分布する。5層は暗赤褐色シルトでほぼ



写真4 SI37竪穴住居跡 遺構確認写真



第5図 SI37竪穴住居跡 堆積層平面分布(遺構確認時)

全域に分布する。

また、b区の1層と2層の間より焼土を確認している。

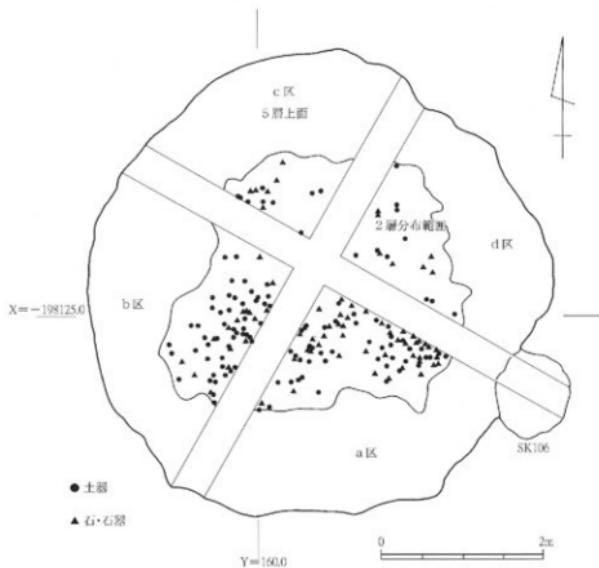
1・2・3層を除去し、今年度の調査は4層上面を検出し終了した。4層以下の状況は次年度に報告したい。遺物は2層のa・b区から多く出土しており、特にb区からは土器が多く出土している(第6図)。3層の遺物は、ごく少量である。

出土遺物は、縄文土器片(1520点)、円盤状土製品(2点)、石鏃(25点)、石錐(3点)、尖頭器(2点)、スクレイパー(5点)、石核(2点)、二次加工のある剥片(17点)、測片(294点)、チップ(266点)、砥石(4点)、種石器(6点)が出土している。また、

後期旧石器の可能性のある石刃が出土している(写真16右下)。

遺構下部の状況を把握するため、a区ベルト際に先行トレンチを設定し、掘り込みを行ったが、床面は未検出である。

床面、炉跡、柱穴、周溝等の精査は次年度へ持ち越しとなっている。



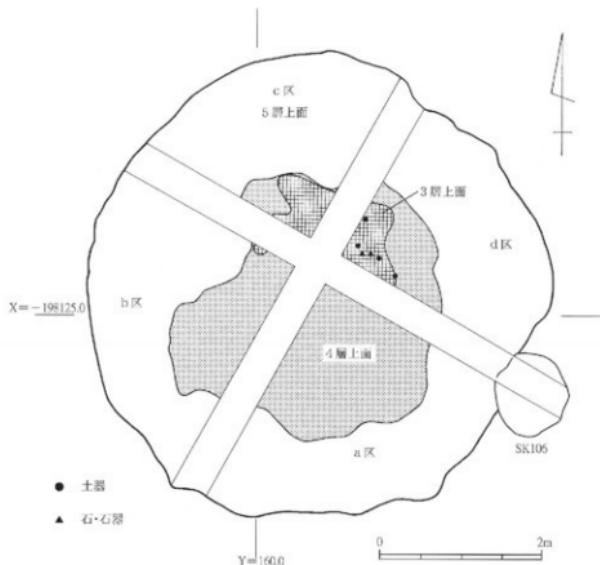
第6図 SI37竪穴住居跡 2層遺物出土状況



写真5 SI37竪穴住居跡 2層遺物出土状況



写真6 SI37竪穴住居跡 4・5層上面



第7図 SI37竪穴住居跡 3・4層平面分布と遺物出土状況

### 3. その他の遺構

その他の遺構として、溝1条(SD101)、土抗8基(SK102~109)を確認している(第4図)。

今回の調査は、SI36とSI37の調査を中心に行ったため、その他の遺構については、次年度以降の調査予定となっている。

### 4. 遺物包含層

1区北側に遺物包含層の調査として、遺物包含層の境界域が調査区内に入るように2区を設定した。第1次調査の埋め戻し土上面より人力で掘削を行ったが、埋め戻し土はかなり転圧されていて硬く、掘り下げに時間要したため、北壁際に40cm幅のサブトレンチを設定し、遺物包含層上面の検出を行った。現地表下約50cm~70cmで遺物包含層上面を確認した。

調査区内全面の精査は次年度にすることとし、今年度はサブトレンチのみの調査で終了し、埋め戻しを行った。

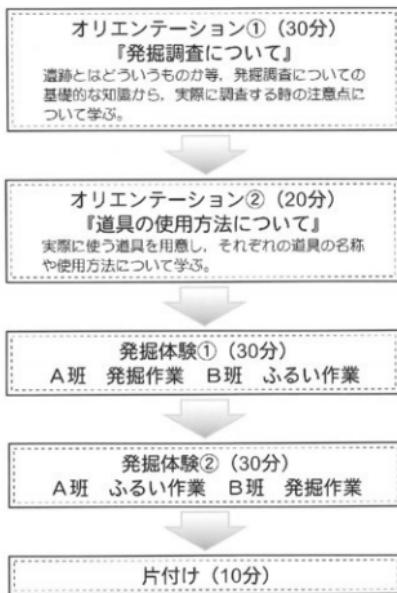
### III 体験活動

体験活動では、募集・学校との調整・当日のオリエンテーション等は、縄文の広場が担当し、当日の体験内容や調査時の指導等については、仙台市教育委員会が担当した。

#### 1. 学校を対象とした発掘体験

今回の調査は「仙台市縄文の森広場」が体験活動の場であることから、市内の小中学校を対象に活動の参加を呼びかけ、9月5日から9月20日の平日に小学校4校、中学校1校の計5校 307名が体験を行った。体験活動では、発掘調査の方法や器材の使用方法を学びながら、1区のSI37堅穴住居跡の調査や、2区の遺物包含層の調査、ふるい作業を実際に体験した。

#### 発掘体験の流れ（午前と午後2回に分けて実施）



体験者は午前午後各30名程度を基本とし、午前に体験発録をした児童生徒は午後に勾玉作りや火起こし等を体験し、午前と午後の児童生徒を入れ替えて体験をした。

発掘体験は調査の状況により、1区のSI37、もしくは2区の遺物包含層の調査に参加した。

調査区に入られる人数が限られるため30名をさらに半分にしA班とB班に分けた。A班は先に調査区に入り、発掘作業を行い、B班はその後、ふるい作業を行い、交代で2つの作業を体験した。

発掘体験参加校		
東四郎丸小学校	6年生	東六番丁小学校 6年生
国見小学校	6年生	南光台東中学校 1年生
七郷小学校	6年生	



写真7 オリエンテーション①



写真8 オリエンテーション②



写真9 遺構についての説明の様子

体験した作業	
1区 SI37	・1層精査
2区 遺物包含層埋め戻し土除去	
1区 埋め戻し土ふるい作業	



写真10 発掘体験の様子 国見小学校(遺物包含層の調査)



写真11 発掘体験の様子 東六番丁小学校  
(SI37竪穴住居跡の調査)



写真12 発掘体験の様子 南光台東中学校(遺物包含層の調査)

### 【児童生徒の感想】

・ちいさい土器のかけらなどもあるので見つけるのは少し難しかったです。でも、見つかった時の喜びは最高!!作業はとても地味。カリカリ、カリカリひたすら掘る、というよりけざるんです。キズをついたらもう大変。しんちょうどにとりだします。これこそまさに古代の人々が残してくれたタイムカプセル!!とてもきちょうな体験でした。

・私は授業で山田上ノ台遺跡のことについて学習していたので、今回の発掘調査はとても楽しみにしていました。私は発掘調査をするのが初めてだったので、最初はドキドキしていました。道具もいろいろあって、どれも私は使ったことのない物でしたが、スタッフの方々のお話を聞いて楽しんで発掘調査することができました。慎重に掘り始めると、いきなり「コツツ」という音がしたので、びっくりしました。掘っていくうちに、だんだん形が見えてきて、とってもうれしくなっていきました。掘り終わって、出てきた物は「縄文土器のかけら」でした。私は、まさかこんなに立派な物を発掘できるとは思っていなかったので、今では奇跡だと思っています。それからも、一生懸命掘り続けて「矢じりの先」も発掘することができました。本当に楽しい体験をすることができました。今回の校外学習の中では、1番楽しくて、1番縄文時代を感じることができる体験でした。スタッフのみなさん、本当にありがとうございました。

## 2. 一般を対象とした発掘体験

9月2日から9月24日の土日には、一般を対象とした発掘体験を行った。学校を対象とした体験活動と同様、1区のSI37竪穴住居跡や遺物包含層の調査やふるい作業に一般の方47名が参加した。

次年度以降についても、発掘体験は継続していく予定である。

## 一般体験のプログラム

オリエンテーション① (30分)  
『発掘調査について』

オリエンテーション② (20分)  
『道具の使用方法について』

発掘体験①

昼 食

発掘体験②

片付け (10分)

### 体験した作業

- 1区 遺構確認作業
  - SI37 • 1層精査
  - 2層精査
  - 2層遺物出土状況図作成
  - 3層精査
- 2区 遺物包含層埋め戻し土除去
- 1区 埋め戻し土ふるい作業



写真13 一般体験（遺構確認作業）



写真14 一般体験（遺物出土状況図作成）

## 3. 一般を対象にした整理作業体験

調査終了後、縄文の森広場施設内において、整理作業体験を行った。一般を対象に毎月1回、遺物包含層の埋め戻し上の遺物の整理作業を行い、毎月数名の方が参加した。

整理作業では、遺物を水洗するときの注意点や、道具の使用方法について学びながら、実際に調査で出土した遺物を水洗する作業を行った。

次年度以降についても、整理作業体験を行っていく予定で、作業内容については、遺物のネーミングや接合なども行っていく予定である。

### 体験した作業

- 遺物の水洗
- 遺物のバインダー処理



写真15 整理体験の様子（遺物水洗作業）

## 【発掘体験者の感想】

- ・思ったより難しい(遺物にキズをつけること)が、面白い。
- ・楽しかったです。長年体験してみたかったので、夢がかないました。ありがとうございました。
- ・コツコツと地味な作業だが何か発見した時の喜びは大きかった。一つ一つの遺物を全部細かく記録するのは大変な仕事である。今回は測量などを体験したが、実際に掘ってみたいなと思った。縄文時代の地層に今自分が触れていると思うとなんだか不思議な気持ちになった。
- ・発掘によって石器類の剥片に接した時、縄文の人々に近づいたと感じました。
- ・縄文時代の土の中から赤や青の色を見つけると、なんだか年甲斐もなくドキドキしてしまう。良い体験をさせていただき感謝いたします。

## IV　まとめ

今年度の調査は、継続調査の1回目として行った。来年度以降も毎年一定の期間継続して調査を行っていく予定である。今年度は1区のSI36竪穴住居跡、SI37竪穴住居跡を中心に調査を行ったが、まだ調査途中であり、今回は調査の経過報告とし、詳細については次年度以降調査が終了した時点で報告したい。

### 参考文献

- 仙台市教育委員会 1987『山田上ノ台遺跡』仙台市文化財調査報告書第100集  
仙台市教育委員会 2003『山田上ノ台遺跡』仙台市文化財調査報告書第265集  
仙台市教育委員会 1987『北前遺跡』仙台市文化財調査報告書第105集  
仙台市教育委員会 1989『北前遺跡』仙台市文化財調査報告書第129集



写真16　出土遺物

## 報告書抄録

ふりがな 書名	やまだうえのだいいせき 山田上ノ台遺跡							
副書名	第5次発掘調査概報							
巻次								
シリーズ名	仙台市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第308集							
編著者名	齊藤義彦							
収集機関	仙台市教育委員会							
所在地	〒980-8671 宮城県仙台市青葉区国分町三丁目7-1 TEL 022-214-8893							
発行年月日	2007年3月31日							
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
山田上ノ台遺跡	宮城県仙台市 太白区山田上ノ台町	04100	01003	38° 13' 03"	140° 49' 58"	2006.08.23 ~ 2006.10.05	165m <sup>2</sup>	学術調査
所取遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
山田上ノ台遺跡	集落	旧石器	縦穴住居跡	石刃、 繩文土器、 石鏃、石錐、石核、 礫石器等	縄文	土坑 遺物包含層		

仙台市文化財調査報告書第308集

### 山田上ノ台遺跡

—第5次発掘調査平成18年度概報—

2007年3月

発行 仙台市教育委員会

仙台市青葉区国分町三丁目7-1

文化財課 022(214)8893

印刷 株式会社 建設プレス

仙台市青葉区折立三丁目2-10

TEL 022(302)0177

